

3

第3章

Visual Studioでの インテル Visual Fortran の利用

インテル Visual Fortran は、マイクロソフト社の開発環境である Visual Studio に統合して利用することができます。Visual Studio に統合することで、コンパイルに求められる環境を一括管理できるだけでなく、ソースコードと連携しながらデバッグを行うなど、容易なプログラム開発を行うことができます。

Visual Fortran コンパイラをインストールすると、Visual Studio への統合が自動的に設定されます。コンパイラのバージョンとサポートされる Visual Studio の関係は次のようになっています。

Visual Fortran 10.0全バージョン	Visual Studio 2003、2005
Visual Fortran 10.1.011以降	Visual Studio 2003、2005
Visual Fortran 10.1.019以降	Visual Studio 2003、2005、2008

Visual Studio 2008 を利用する場合、10.1.019 以降のバージョンをインストールしてください。Visual Studio に統合することで、環境設定、コンパイル、デバッグに Visual Studio の機能を利用できるようになります。

3-1 インテル Visual Fortran の統合を確認する

Visual Studio を起動し、メニューから [ツール] → [オプション] を選択します。



図3.1 Visual Studio のメニュー

オプション画面が開いたら、左側にあるオプション項目に「Intel (R) Fortran」が追加されていることを確認し、項目名の左にある [+] マークをクリックします。「General」と「Compilers」のサブ項目が表示されるので、「Compilers」を選択してください。画面右側に「Compiler Selection」が表示され、「Selected Compiler:」にインストールしたコンパイラのバージョンが表示されます。表示されない場合は統合が正しく行われていない可能性があります。

また、すでに他のバージョンの Visual Fortran をインストール済みの環境に新しいバージョン

ンを追加インストールした場合は、ここで利用するコンパイラのバージョンを設定します。

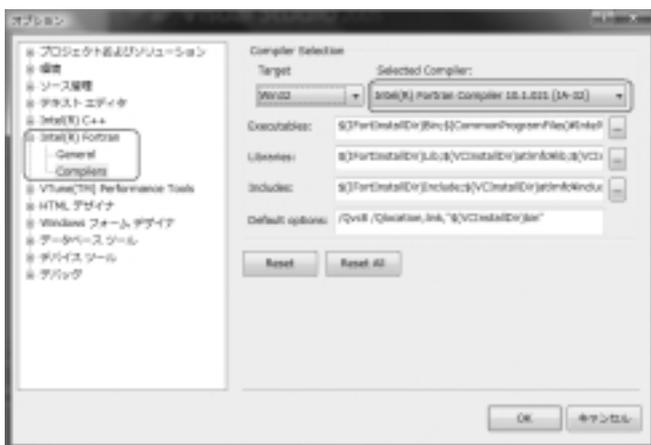


図3.2 オプション設定画面

3-2 サンプルコードのコンパイル

Explorerを起動し、Visual Fortran コンパイラのサンプルコード「カレンダー」が含まれるディレクトリを開きます（デフォルトでは¥ProgramFiles¥Intel¥Compiler¥Fortran¥XX.XX.XX¥samples¥QuickWin¥Calender。XX.XX.XXはコンパイラのバージョン）。ファイルリストの種類の欄に「Microsoft Visual Studio Solution」と表示されるファイルCalendarをダブルクリックします。

Windows Vistaを利用する場合や直接サンプルを変更したくない場合は、他のディレクトリへコピーしてからファイルを開いてください。ソリューションファイルは、Visual Studioで作成したプロジェクトの設定が保存されているファイルです。

